

### はじめに

1972年の日中国交回復以降、日本人は隣国である中国に関心を寄せはじめた。そして現在大学では第二言語として中国語を学習する学生が増え続け、英語に続いて人気科目となっている。一方中国では、国交回復当初は大学で日本語を学ぶ学生はほとんどおらず、英語や数学などの学科に入れずに仕方なく勉強している学生が多かった。しかし、現在では大学の日本語学科や専門学校で学ぶ学生が増えており、彼らの多くは3年ないし4年間で、日本人が6年間英語を勉強した能力をはるかに上回るほど流暢な日本語を話している。

私は現在大学で中国語のゼミを履修している。その関係で中国の南京、天津へ行き勉強する機会があった。その両方の都市で日本語を学ぶ中国人との出会いがあり、彼らと話しをする機会があった。彼らは必ず「〇〇と申します。」と自らを名乗り、その丁寧さに驚いた。日本人の若者の中で一体どのくらいの人が同年代の他人に向かってこのように名乗ることができるのだろうか。私は恥ずかしながら就職活動時に初めてこのように名乗ることを普通に思えるようになった一人である。

しかし、彼らと話しを進めていくと流暢な日本語を話しているのにも関わらず、なぜか違和感を覚えてしまうことがたびたびあった。そして日本でも在日中国人と知り合う機会が増え、彼らと話をしているうちに、彼らが日本語で依頼、誤りを正す時、断る時にこの違和感が表面化することに気付いた。彼らの流暢な日本語になぜ違和感を覚えるのだろうか。

そこで本論では日本語を学習している中国人の日本語における依頼表現、誤りを正す表現、断りの表現について調べてみようと思う。

## 1. 研究の問題と目的

通常、第二言語を学習する際に重要視されることは文法ではないだろうか。英語など外国語の学習書でも文法や文の構成について書かれている本が多い。例えば中国語と日本語の場合、文の構成がまったく違う。日本語では「私は日本語が好きです。」のように主語＋目的語＋述語の構成であるのに対して、中国では「我喜歡日語。」のように主語＋述語＋目的語という構成である。第二言語を学習する際にまずこの基本的な違いから入っていきそして同型異義語など同じ漢字を使っている意味が全く異なる、例えば日本では「手紙」は他人へ自分の意思などを書いた「手紙」であるのに対して、中国では「トイレットペーパー」の意味になる、といった単語の違いについて学ぶ。

しかしそのような基本的な違いをクリアした上でさらに知っておかなくてはならないのは、その言葉の話される国の文化が言語に与える影響についてではないだろうか。そして残念なことに日中文化の違いについての研究は増えているのに

対して、第二言語の学習に与える文化の違いの影響については、あまり検討がなされていない。どちらかというと、今始まったばかりでこれからはなされる問題となろう。

殊に外国人を対象とする日本語教育においては、「日本語教育における「文化」の扱い方については模索の段階であり、明確な位置付けはなされていない」（『日本語教授法』 石田敏子 1988）とされるように文法的な学習は体系化されているが、言語の学習に与える文化の影響についてはこれから発展していく課題である。これは日本で行われる日本語教育についてのことであり、外国での外国人の講師による日本語教育に関しては、まだ遠い話しとなろう。言語は、つねに文化に支えられて機能しているものである。文化から分離することのできない存在である。言語を学習する際、言語のみでなく、その言語を支えている文化的な背景も学習してこそ、素晴らしい言語学習が可能である。しかし、残念ながら、第2言語としての日本語教育現場では、日本の文化を紹介する科目があっても、日本の文化と言語の関係についての授業は少ないのが現状である。その結果、外国人が日本語と日本の文化との関係についての知識が足りないため、日本の文化ではなく、母国の文化の影響を受けた日本語を話すことになると考えられる。

そこで本研究では、日本語学習者を中国人特定として、日本語学習における文化の違いによって生じる日本語への影響を検討することを目的とし、特に日本の文化が顕著に表れるであろう依頼表現、誤りを正す時の表現、断りの表現についての影響を調べる。

中国人にとって日本語は比較的学習しやすい言語ではないだろうか。というのも、現在の中国では日本語で使用される文字ではなく簡体字を使用しているというものの、漢字というくりの中では同じ文字を使用しているからである。そしてその漢字の意味さえ知っておればある程度の意味がわかってしまう。あとはひらがな、カタカナを覚えれば日本語を読むことはできるようになる。日本語は表面的には簡単な言語であると思われる。

しかし日本語は待遇表現など相手を配慮した言葉遣いがある。現に2000年12月14日付けの朝日新聞の朝刊によると、文相の諮問機関である「国語審議会」では敬語より広い概念でとらえた「敬意表現」を提唱した。これは現在の社会では人間関係がより複雑化しているとして、「相互に尊重し、相手や場面に配慮して使い分ける言葉遣い」の提唱である。例えば親しい関係で本を借りる時に、「その本、貸してくれない？」「貸してほしいんだけど」と言うのも敬意表現であるとの見解を示すとあるように、日本では国自体が人間関係と言語を密接な関係と捉えて答申を述べている。以上のことから言えるように、日本人は人間関係をより大切に考える文化であり、コミュニケーションの手段である言語にも影響を受けている。

一方の中国では、文化大革命以後徹底した平等主義を貫いており年長者への敬意的表現はあるものの、親しい間柄など横の結びつきにおいては平等である。したがって言語においても待遇表現はみられない。また、中国人の文化として自分の意見をはっきりと主張する点がある。『中国人の価値観 変わりゆく社会意識

とライフスタイル』（千石保、丁謙著）に、「伝統文化では、常に忠・義・信を強調した。また革命のことばにも「立場堅定、旗 鮮明」があった。つまりしっかりとした立場、態度を守り、何を主張し、何に反対するか明確にすることである。隠れること、あいまいな態度を排し、立場を鮮明にしていなければならない。それは自分の心に「正直」であることが人格の中心として考えられてきた。」と著述されているように、日本人の文化とは全く異なり、自己主張をしなくてはいけない文化である。

中国人の文化で生まれ育ち、中国語を母語としてきた中国人が漢字と言う共通文字はあるものの文化が異なる日本語を習得する際、母語である中国語の影響、中国の文化の影響を無意識に受けているのではないだろうか。そしてその影響は日本人が特に配慮して使っている依頼表現、断りの表現、誤りを正す時に使う表現において顕著に表れ、そのような場面において中国人が日本語を話すと日本人には冷たいなどの違和を覚えさせてしまっているのではないかと考えられる。

以上のことから以下の仮説をたてた。

### 3. 仮説

仮説1：日本語で同じ依頼をするのであっても

日本人：遠慮した言い方

中国人：はっきりと意思表示した言い方

ではないか。

仮説2：同様に誤りを正す時や断りの表現でも

日本人：曖昧な言い方

中国人：はっきりと主張した言い方

ではないか。

仮説3：在日中国人と在中中国人の間でも接している文化の違いから、在日中国人のほうがより日本人に近い言葉遣いをするのではないか。

以上の仮説を検討するために口頭調査を行った。

### 4. 調査

方法

#### 1、対象

- |   |                  |       |
|---|------------------|-------|
| ① | 日本人大学生           | : 20人 |
| ② | 在日中国人留学生及び日本語学習者 | : 19人 |
| ③ | 南京師範大学日本語学科学生    | : 19人 |

#### 2、質問紙の構成

質問紙は手書きで3枚（参考資料用においてはワープロと手書きのため2枚）から構成されており、同じ質問を日本語と中国語で記してある。質問項目は「被

験者ならばどのように言うか」と前置きをして、(1)～(5)については主に依頼表現について、(6)、(7)については断りや誤りを正す表現についての場面を設定し日本語で口頭で答えてもらう。そしてその回答をカセットテープレコーダーで録音した。

### 3、調査時における問題点

1、①の日本人に対しての調査と、②の在日中国人の口頭調査には立ち会うことができたので、被験者が質問内容についてわからないことがあった場合に説明して補うことができたが、③の日本語学科の学生の口頭調査にはほとんど立ち会うことができなかつたため、わからない点があっても補足できず、調査の平等さに欠けてしまった。

2、在日中国人には質問紙を一人一人に渡すことができたが、日本人、中国人日本語学科の学生には一枚の質問紙で調査を行った。そのため、在日中国人は質問紙に日本語や中国語で回答を一度書いてから日本語で答える、という形式を取ることができたが、他の被験者は質問紙を読んでそのまま回答するほかなく、この点においても配慮が足りなかつた。

3、①～③までの調査対象者を社会的地位などにおいて平等にするために同年代に設定したのだが、②の在日中国人においては学習歴が8年であったり40歳の被験者がいたり③と全く同じ設定とはいかなかつた。

4、日本人と、在中中国人の被験者は全員女性であったが在日中国人は男性の被験者もいる。男女差による回答差もみられると思われる。

以上の点における配慮が足りなかつたことを問題点として挙げておく。

## 5. 結果と考察

口頭調査の結果から、相手に配慮した言い方をしているか、また自分を主張した言い方であるかという観点で調査結果から抽出した。

(1) ①では、被験者が客の立場であり、店員へ自分に合った服があるかどうか聞く場面である。日本の文化としては、一般的に客と店員の関係は品物を買う側である客のほうが立場上上位につく。したがって日本人は横の関係を大事にするため、自分が上の立場にあっても丁寧な言い方をするのではないかと、一方中国人の文化は横の関係においては平等であることを重んずるため、店員に対しても自分を下手に置くことなく平等な言い方をするのではないかと予想をたてた。そこで会話の中で「すみません」と相手に気を使った言い方した人数を取り上げてみると

- ・日本人 : 8人
- ・在日中国人 : 12人 (無回答1人)
- ・在中中国人 : 13人

となった。日本人はよく謝る文化として知られて久しいがこの状況を見てみると中国人のほうが「すみません」を使用している。「中国人のものさし日本人のもの

さし」によると「日本人の「すみません」には、「陳謝」と「呼びかけ」の二つの意味があり、またこうしたさまざまな背景がある」と著述されているように、「すみません」には相手に対して謝る時と声を掛ける際に使われるため、どちらを考えて使用したかまではわからないにしてもこの結果からは筆者の予想は支持されなかった。

②では、店員へ他の店から自分に合った服を取り寄せてもらう場面であるが、日本人は遠慮した言い方ではないか、中国人は自己主張した言い方ではないかと予想をたてた。そこで店員に対して相手に対して配慮した言い方である待遇表現の「～してもらおう」、「～していただく」を使っているかどうかについて取り上げてみた。結果、

- ・日本人 : 17人
- ・在日中国人 : 10人 (無回答1人)
- ・在中中国人 : 13人

となった。①に続き、今回については在中中国人と日本人については差がみられなかった。しかし、在中中国人では「取り寄せてもいいだろうか」、「取り寄せてもらいます」という言い方もあった。在日中国人に関しては「他の店にありませんか」、「なんとかありませんか」というような自己主張的な言い方があった。よって、予想は支持されたといえる。

③では、店員が誤った値段を提示したことに関して被験者が正しい値段を伝える場面であるが、日本人は婉曲的な言い方が多いのではないか、中国人ははっきりと主張するのではないかと予想をたてた。そこで、相手の誤りを婉曲的に伝える言い方か、直接伝える言い方かどうか取り上げた。

婉曲的に伝える言い方

- ・日本人 : 4人
- ・在日中国人 : 2人
- ・在中中国人 : 2人

直接伝える言い方

- ・日本人 : 11人
- ・在日中国人 : 17人
- ・在中中国人 : 15人

となった。婉曲的に伝えた言い方の基準は「もう一度確認していただけますか」など相手を配慮したかどうか、また直接伝えた言い方は正しい値段を直接提示つたえるなどしたかどうかで判断した。直接的な言い方では日本人は「この値段じゃないんですか」と(値札か何かを提示しながらと推測される)伝える人が6人いた。在日中国人では、「1900円じゃないですか」のように実際の値段を伝えた人が4人、「間違っています」と伝える人が4人だった。また、「間違っただしょうが」と誤りを非難する言い方もあった。在中中国人では、実際の値段を伝えた人が1人、「少し高いんじゃないですか」と高いことを主張した人が6人、「間違っただしょう」とはっきりと否定した人が4人いた。このことから仮説2は支

持されたといえる。

(2)では、タクシーの運転手に行き先を告げる場面であるが、「お願いします」と言ったかどうかについて取り上げてみた。

- ・日本人 : 19人
- ・在日中国人 : 18人
- ・在中中国人 : 6人

となった。日本人と在日中国人に差は見られなかったが、在中中国人では「東京へ行きたい」と自己主張する言い方をした人が9人いた。また「東京駅へ」という人もいた。この結果から仮説3が支持されたといえる。

(3)では、生徒に教科書を読むように指示する場面であるが、日本人と在中中国人にはこの質問の意図を理解してもらえたが、在日中国人には一部理解されなかった。そのため結果に関して平等性に欠ける点を前に触れておく。この場面では中国人の文化では教師の存在は日本よりも尊ばれた存在であるため、中国人は命令口調で言うのではないか、一方で日本人は教師の存在であれ生徒に対して敬語を使うのではないかと予想をたてた。そこで、「～してください」、「もらいます」と言った人数を取り上げた。結果、

- ・日本人 : 10人
- ・在日中国人 : 15人
- ・在中中国人 : 17人

となった。「してください」と言った以外では日本人は「読んでみましょう」と呼びかけた人が2人、「読んで」と命令した人が2人だった。在中中国人では「読みなさい」と命令した人が1人、「読んでみましょう」と呼びかけた人が1人だった。この結果から筆者の予想は支持されなかった。

(4)では、なかなか本を返してくれない友人に対して返却を依頼する場面であるが、日本人は友人に対して婉曲的に返還を求めるのではないか、一方中国人ははっきりと返却を求めるのではないかと予想をたてた。そこで、敬意表現である「～してもらえる?」と聞くのか、はっきりと「返して」と言うのか、また「どうなった?」と婉曲的に聞くのかについて取り上げてみた。

「もらえる?」と相手に配慮した言い方

- ・日本人 : 7人
- ・在日中国人 : 2人
- ・在中中国人 : 0人

「返して」などはっきりした言い方

- ・日本人 : 8人 (その内甘えた口調 : 2人)
- ・在日中国人 : 6人 (その内甘えた口調 : 1人)
- ・在中中国人 : 7人

「どうなった?」「読んだ?」など婉曲的な言い方

- ・日本人 : 6人
- ・在日中国人 : 4人
- ・在中中国人 : 10人

となった。この結果から日本人は相手に配慮して「返してもらえる？」と相手を配慮した言い方が多かった。また「次に貸したい人がいるから」という理由を言う人が多かった。一方、在日中国人は、日本人のような理由を述べるのではなく、「自分が使いたいから」という理由を言う人が多かった。しかし在中中国人と比べると相手を配慮した言い方が人数からみて多かった。在中中国人は婉曲的な言い方が多かったのだが、日本人の婉曲的な言い方とは異なり、読み終わったかどうか聞く言い方が多かった。「返して」とはっきりとした言い方についても日本人は語尾を上げて甘えた口調が多かったのに対して、在日中国人の場合は「俺の事を考えて本を返したほうがいいよ」、「返せ！！」と自己主張した言い方がみられた。在中中国人では「もう返してもらいます」という言い方が2人とこちらも自己主張した言い方がみられた。以上の点から予想は支持されたといえる。

(5) では、友人にお金を貸してもらおうという場面だが、日本人は親しい仲であってもお金を借りることにに対して申し訳ないという気持ちをこめた言い方をするのはではないか、中国人は「借りたい」と意思表示をはっきりと示すのではないかと予想をたてた。そこで相手に配慮して「貸してくれる（もらえる）？」という言い方をするのか、「貸して」とはっきりと言うのか、どちらでもなく曖昧に言うのかについて取り上げてみた。

「貸してくれる（もらえる）？」という言い方

- ・日本人 : 16人
- ・在日中国人 : 6人
- ・在中中国人 : 6人

「貸して」という言い方

- ・日本人 : 4人
- ・在日中国人 : 3人
- ・在中中国人 : 9人

曖昧な言い方

- ・日本人 : 0人
- ・在日中国人 : 3人
- ・在中中国人 : 1人

となった。日本人と在日中国人では似たような結果となったが、日本人の場合「今度ちゃんと返すから」というようにすぐ返すことを強調した言い方が多かったが在日中国人の場合、自分は今お金が足りないことを強調した言い方が多かった。また在中中国人の場合は「貸して欲しいんだけど」と自己主張した言い方がみられた。以上の結果から人数から見ると同じ結果だが、言い方が異なる為予想は一部支持されたといえる。

(6) ①では勘定をせずに帰ろうとする客に対して被験者が呼び止める場面であるが、日本人の文化では非がある客に対しても立場上丁寧な言い方をするのはではないか、一方中国人は道理がかなわないことに関しては許せないと感じるため、丁寧ではない言い方になるのではないかと予想をたてた。そこでお客に対して「お支払いが済んでいないのでは？（済んでいないと思うのですが）」と婉曲的に呼び

止める言い方か、「お支払いはまだです（お支払いをお願いします）」、「ちょっとお客様！！」、「お待ちください」とはっきりと呼び止める言い方かについて取り上げてみた。

#### 婉曲的に呼び止めた言い方

- ・日本人 : 7人
- ・在日中国人 : 2人
- ・在中中国人 : 0人

#### はっきりと呼び止めた言い方

- ・日本人 : 11人
- ・在日中国人 : 12人（無回答1人）
- ・在中中国人 : 14人

となった。在日中国人は在中中国人よりも日本でアルバイトの経験があるのか、「お客さま」と丁寧な呼び方が多かったが、一方で「申し訳ございません」と言いながらも「支払いをしたら帰ってもいいです」とはっきりと言う人もいた。また、はっきりと呼び止めた言い方では日本人は「お支払いがまだなのですが」と呼び止める言い方が多かったが、在日、在中中国人は「ちょっと待ってください」と呼び止める言い方が多かった。この結果から、呼び止める際に日本人はお客に対してある程度の丁寧な言い方をするように心がけているのがみられ、中国人は丁寧な言い方をしつつも客は悪い事をしているということをはっきりと示している。これらを考えると予想は支持されたといえる。

②では、支払ったと主張する客に対してレシートを見せてもらう場面であるが、日本人は遠慮がちにお願いするのに対して、中国人は自己主張した言い方ではないかと予想をたてた。そこで相手を配慮して「見せていただけないでしょうか」というような言い方をするのか、「確認したい」、「見せてください」と主張した言い方なのか取り上げてみた。

#### 相手を配慮した言い方

- ・日本人 : 15人
- ・在日中国人 : 15人
- ・在中中国人 : 9人

#### 主張した言い方

- ・日本人 : 5人
- ・在日中国人 : 4人
- ・在中中国人 : 9人

となった。この結果から在日中国人は日本人と同じくらい相手に配慮した言い方をしていた。はっきりと主張した言い方では日本人は「確認します」、「見せてもらいます」と主張した言い方がみられた。在中中国人は「見せてください」と主張した言い方がみられた。以上の点から考えると支払ったと弁解する客に対して強い口調をするのが多いのは日本人であり、中国人のほうが客を意識した言い方となった。ゆえに予想は支持されない。

③では、結局支払っていなかった客に対して二度としないように注意を促す場面であるが、日本人は次回からも客である事を意識した言い方で、中国人は悪い事だと注意するのではないかと予想をたてた。そこで今後しないように「お願いします」と頼むか、「いけないことです」と注意するのかに区別して取り上げてみた。

「お願いします」と頼んだ言い方

- ・日本人 : 7人
- ・在日中国人 : 2人
- ・在中中国人 : 0人

「いけないことです」など注意した言い方

- ・日本人 : 13人
- ・在日中国人 : 17人
- ・在中中国人 : 17人 (無回答2人)

となった。注意した言い方は日本人では「今後お気をつけください」というように注意を促した人が12人で「いけないこと」と注意した人が1人だった。それに対して在日中国人は11人で、「今度こんなことするな!!」、「恥ずかしい事をしないでください」、「あなたがたぶん忘れると思います」と強い口調で言った人が6人いた。在中中国人では、「そんなこと(こんなこと)しないでください」と言った人が9人だった。以上の結果から日本人はお客に対して今後はお気をつけくださいと遠回りにしてはいけないことを注意するのに対して、中国人は万引きは恥ずべき行為と捉えてしてはいけないと直接注意することがわかった。したがって予想は支持されたといえる。

(7)では、セールスマンに対して帰って欲しいと断る場面であるが、日本人は遠慮がちに丁寧に断るのではないかと、中国人ははっきりと断るのではないかと予想をたてた。そこで「忙しい」といった理由をつけて断る言い方と、「いらぬ」とはっきりと断る言い方に区別して取り上げてみた。

理由をつけて断る

- ・日本人 : 15人
- ・在日中国人 : 15人
- ・在中中国人 : 7人

はっきりと断る

- ・日本人 : 5人
- ・在日中国人 : 3人
- ・在中中国人 : 9人 (無回答3人)

となった。理由をつけて断るのでは「今忙しいから」、「出掛けるところなので」という理由は三者とも同じなのだが、日本人と在日中国人の場合語尾を濁らせる傾向があるのに対して在中中国人ははっきりと語尾を言っている。このことは日本人から聞くと強い口調に聞こえるのではないだろうか。また在日中国人は同じような理由に加えて「日本語がわからない」と理由をつけて断った人が3人いた。はっきりと断った人数で見ると在中中国人が最も多く、「この物をいらぬ」「ど

んな物でも買いたくない」と主張する言い方が目立った。以上の点から在日中国人は日本人同様曖昧な断りをするのに対し在中中国人は主張した断り方をしていることがわかった。

以上の結果から考慮すると、タクシーに乗った時に「お願いします」と言う時や、被験者が店員の立場でお客に接する時において在日中国人は日本人と同じような言い方をすることがわかった。これは、日本での生活が長ければそれだけ日本の文化に接する機会があり、お願いすることや接客の仕方など中国の文化とは顕著に違う場面を自然と学習していることがうかがえる。一方在中中国人は在日中国人に比べてお願いするときの場面において言いかたが丁寧であるのに自己主張をするという中国の文化の影響が表れているため、日本人が聞くと冷たい、きついという言い方になってしまう。また、在日、在中中国人共通なのは自分にとって不当であると考えた場合、道理にかなわないと感じた場合に中国文化の影響が表れて強い口調になることがわかった。日本人はこれらの場合は遠まわしに非難するので直接非難されると違和を感じるのではないのだろうか。

仮説を考察すると、仮説1においては被験者が教師の立場で生徒に指示する場合において、客のレシートを確認する際の依頼においては中国人も相手に配慮した言い方であったものの、「自分が〇〇したい」という自己主張がみられたり「ちょっと待って!!」と客に接する際も関係が平等であるような言いかたがみられたりと中国文化が表れていたのが指示されたといえる。

仮説2においては顕著に日本人との差がみられた。先にも叙述したように自分にとって不当だと感じたり道理に合わないと感じたときのように不愉快になった時に口調が強くなった。この仮説も指示されたといえる。

仮説3においても先に叙述したが、どんなに言いかたが丁寧であっても日本文化に接していない在中中国人は自己主張した言いかたが多く、それは接客時に特によく表れた。

## 6. おわりに

今回の調査では前書きとしても触れたが立会いの有無、男女差、学習歴などいろいろと配慮が足りなかったために平等性が保てなかった部分があった。また、調査だという意識の表れで普段よりも丁寧な言い方であるだろうことは否めない。また、質問項目が少なかったので仮説を立証するには弱かったことも反省すべき点である。今後の課題として先の配慮を考慮したうえで今回は3点における考察であったが、命令表現など日本文化と中国文化が顕著に異なる表現において中国人の日本語に与える影響についての研究がこれからなされることを期待する。

また、日本語教育の現場においてこれらの調査結果をうけてどのような活用をするべきか検討され、これから日本語を学ぼうとする中国人へ有効な教育がされていくことを切に祈る。

引用文献

- 朝日新聞 (2000) 朝日新聞社 12版 15面  
 石田 敏子 (1988) 『日本語教授法』 大修館書店 P. 11~12  
 千石 保 (1992) 『中国人の価値観 変わりゆく社会意識とライフ  
 丁 謙 タイル』 サイマル出版会 P. 64  
 村山 孚 (1995) 『中国人のものさし日本人のものさし』 草思社  
 P. 90

参考文献

- 石田 敏子 (1988) 『日本語教授法』 大修館書店  
 千石 保 (1992) 『中国人の価値観 変わりゆく社会意識とライフ  
 ス丁 謙 タイル』 サイマル出版会  
 J. V. ネウストプニー (1995) 『新しい日本語教育のために』 大修館書店  
 高橋 満 (1993) 『もっと知りたい中国Ⅱ 社会・文化編』  
 辻 康吾 弘文堂  
 野村 浩一

(株)日鉄ヒューマンデベロップメント

- (1999) 『日本—その姿と心—<日中対照>』 学生社  
 文化庁文化部国語科 (1994) 『異文化理解のための日本語教育Q&A』  
 大蔵省印刷局  
 村山 孚 (1995) 『中国人のものさし日本人のものさし』 草思社  
 ルシアン. W. パイ原著 園田茂人訳 (1993) 『中国人の交渉スタイル—日米ビジネスマンの異  
 文化体験—』 大修館書店  
 ルース. ベネディクト著 長谷川松治訳 (1972) 『定訳 菊と刀 日本文化の型』 社会思想社